

# 一般入試前期B日程

## 国語

### I

出典 中屋敷 均「科学と非化学 その正体を探る」(講談社 2019年)

古代ギリシャで行われていた「デルフォイの神託」が社会的な装置として果たした役割やその正体が何であったかを論じたうえで、現代において合意形成を得るための装置の一つに科学があることを主張している文章です。平易な文章ですから、文意はつかみやすいでしょう。

問1【漢字の書き取り問題】(解答番号は[1]～[7])

a 討伐、b ろうじょう、c 転機、d 撤退、e 儀式、f 韻文、g 陶醉感が正答です。f が難しかったようですが、中学校・高校の授業で散文と韻文について学習しています。漢字の勉強は、日頃の心がけ次第であり、継続した学びが必要です。全問正答者はいませんでした。

問2【空欄補充問題・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は[8])

空欄 [ア] は本文1行目にある「無知の知」がヒントです。正答は③、正答率は88%でした。

問3【空欄補充問題・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は[9])

空欄 [イ] は、4行あとにある「名声を確立する」がヒントです。正答は⑥です。正答率は97%でした。

問4【空欄補充問題・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は[10])

空欄 [ウ] は、4行前の一文がヒントです。正答は③です。正答率は72%でした。

問5【空欄補充問題・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は[11])

空欄 [エ] は、直前の内容を押さえることができれば正答を導くことができます。正答は①です。正答率は73%でした。

問6【語句の意味】(解答番号は[12])

現在使用される慣用句の中には、本来の意味から離れて誤用されているものがあります。思い込みでなく、ひとつひとつ確認してみることも必要です。正答は⑥、正答率は42%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は[13])

傍線部Bの直後を押さえることが肝要です。正答は⑤で、正答率は84%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は[14])

「デルフォイの神託」の正体を把握できているかを問うています。正答は⑥で、正答率は84%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は[15])

傍線部Dの直後から選択肢を丁寧に見れば、正答が③しかないことがわかります。正答率は79%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は[16])

難しかったようです。正答は①です。選択肢③を選んだ受験生も一定数いましたが、③では「実験データなどは様々な圧力を受けている」とある箇所が本文では「神官」が圧力を受けていることになっており、間違いです。正答率は36%でした。

問11【小見出し】（解答番号は17）

正答は⑧です。本節では「デルフォイの神託」によってギリシャの危機が救われたことが述べられ、この逸話を通して「デルフォイの神託」の価値を確認しています。正答率は72%でした。

問12【小見出し】（解答番号は18）

正答は⑤です。現代の科学者が解明したことが中心に述べられています。正答率は55%でした。

問13【内容合致問題】（解答番号は19・20）

正答は⑥と⑧です。完全正答率は21%でした。①は「デルフォイの神託は、全能の神であるゼウスがその年に世界の中心と決めた場所で行われ」が、②は「審判の神が降臨した」が、③は「歴史書で指摘している」が、④は「絶対王政では必要とした」が、⑤は「神託」を必要悪として利用し」が、⑦は「現代の民主主義国家は、…共通理解を持っており」がそれぞれ本文の内容と異なります。

## II

出典 斎藤 幸平「人新世の『資本論』（集英社 2020年）

人類の経済活動が地球を破壊する危機について論じている書です。グローバル・ノースとグローバル・サウスの関係や構造的な問題点について述べられている箇所から出題しました。論旨も主張も明快ですから内容を理解することは難しくはないでしょう。

問1【漢字の読み書き】（解答番号は21～26）

a縫製、bさいくつ、c享受、d断罪、e土壤、f糾弾が正答です。bとdは大半の受験生が正答している一方で、aは多くの受験生が書いていませんでした。全問正答者は全体の2%でした。

問2【空欄補充】（解答番号は27）

正答は⑧です。前段落の内容や空欄 I 前文の「～なしには、帝国的生活様式は維持できない」が最大のヒントになります。正答率は70%でした。

問3【空欄補充】（解答番号は28）

正答は④です。それまでの文脈や空欄 II 直後の「グローバル・サウスから奪われていく」がヒントです。正答率は97%とほぼ全員が正答でした。

問4【空欄補充】（解答番号は29）

正答は①です。前文の「新たに収奪の対象となる」の特に「新たに」がヒントとなりますので、④は不正解です。正答率は55%でした。

問5【空欄補充】（解答番号は30）

正答は⑥です。直前や傍線Dの段落の内容がヒントになります。それらを踏まえ、選択肢の主語述語の関係を見ると⑥以外は誤答になります。正答率は43%でした。

問6【文脈把握による内容理解】（解答番号は31）

正答は⑤で、正答率は81%でした。誤答として最も多かった①は、「グローバル・ノースからの収奪」という文言が間違いです。

**問7【文脈把握による内容理解】**（解答番号は32）

正答は⑥です。「悲劇」の内容を前後の文脈から理解すれば、正答は導けるでしょう。正答率は55%でした。④は「大量廃棄」が間違いです。

**問8【文脈把握による内容理解】**（解答番号は33）

正答は⑤です。正答率は80%と多くの受験生が正答でした。①は「批判している」、②と③は「何度も聞き入れてこなかった」という箇所が誤りです。

**問9【文脈把握による内容理解】**（解答番号は34）

正答は⑥です。傍線部と同段落の「真実を知ることが恐れる。」以下の箇所がヒントになるでしょう。正答率は66%でした。

**問10【文脈把握による内容理解】**（解答番号は35）

正答は③です。誤答として多かった④については、「一層無関心」になることと「不公正」とが直接にはつながらず、誤りです。正答率は66%でした。

**問11【小見出し選択】**（解答番号は36）

④が正答です。節全体の内容を掴めば難しくなく、正答率は97%とほぼ全員が正答でした。

**問12【小見出し選択】**（解答番号は37）

正答は②です。節全体の内容と中程の「ただ、」以降の内容を把握すれば、正答を導けるでしょう。正答率は55%でした。

**問13【小見出し選択】**（解答番号は38）

正答は⑤です。『知らない』から『知りたくない』や「未来へと先延ばしにされていく」などの言葉がヒントとなります。正答率は69%でした。

**問14【内容合致】**（解答番号は39・40）

正答は⑦と⑨です。③は居住地「すら制限」とまでは本文には書かれておらず不正解となります。④は「その訴えが黙認」、⑥は「ミュンヘン工科大学」と「いちはやく批判」がそれぞれ本文に合致しません。完全正答率は21%でした。